港北区災害ボランティア連絡会News

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会
TEL 045-547-2324　FAX 045-531-9561
FB 港北区災害ボランティア連絡会

112号
2023年1月

＊入会は随時受け付けています。
＊あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください 。

http://kohoku-saibora.jimdofree.com

あけましておめでとうございます

会長　宇田川規夫

新年をみなさまお元気でお迎えになることができたと思います。ただ残念ながら今年もコロナ禍で迎えるお正月となってしまいました。私たち災害に備える活動をするボランティアとしてはまず自分や自分の周りの健康、安全の確保は大事なことです。どうぞ充分お気をつけください。

今年は社協が災害ボランティアセンター運営のためのソフトkintoneを導入することで、ボランティアセンター運営の方法も大きく変わることになります。1月にはそのためのシミュレーション訓練を行い検証することとなります。

一方最近の連絡会ニュースは執筆者や配布先も増え、その役割がよりはっきりしてきました。会員のみなさんや地域の声のつぶやきなども拾い上げ、港北区民の減災に役立つ情報を届けたいと思います。

今年は横浜が大きな被害を受けたあの関東大震災から100年となります。この大震災からの教訓もしっかり受け継ぎ、今年も平安な年を送れるよう皆様と共に努力していきたいと思います。

今年も皆さんとともに活発な連絡会の活動を作っていきたいと思います。みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

新年を迎えて　港北区社会福祉協議会　事務局長　仲丸　等

あけましておめでとうございます。

横浜では穏やかな新年を迎えられました。この様な中で忘れてしまいそうですが、歴史を見ても横浜にも大きな災害は来ます。

日頃から災害に備える意識は、自身・家族を守るうえで必要なことです。この意識を広めるうえでも災ボラの活動はとても大切なものと思っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

港北区役所危機管理・地域防災担当 新井田係長のメッセージ

令和４年４月に危機管理・地域防災担当係長に着任した新井田竜平です。私は福島県出身で、東日本大震災を福島市内の実家で経験しましたので、防災を仕事とすることに縁を感じています。危機対応や防災は行政の最も重要な業務です。より一層の使命感を持って職務に取組んでまいります。地域の災害への対応力を高めていくため、引き続き災害ボランティア連絡会の皆さまをはじめとした地域のお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。

初めまして　渡邊です

はじめまして。港北区社会福祉協議会の渡邊です。2022年４月から、港北区災害ボランティア連絡会事務局を担当しております。月１回の定例会をはじめ、連絡会の活動をサポートさせていただくなかで、防災や災害ついての理解を深めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

～あなたはトイレを我慢できますか～　セミナー報告

12月4日に災ボラ主催のセミナーが3年ぶりに開催されました。

今年のテーマは

災害時の備え大丈夫ですか
横浜市のトイレ対策
～あなたはトイレを我慢できますか～

講師に横浜市資源循環局　街の美化推進課担当係長　望月正毅(まさたけ)氏をお迎えし、横浜市のトイレ対策と各家庭でのトイレ備蓄について講演をしていただきました。
建物内の水道管や排水管の損傷などによりトイレが使えなくなった場合、横浜市では地域防災拠点にてトイレパックやくみ取り式仮設トイレの他、下水直結式仮設トイレが準備されているとのこと。そういえば地域防災訓練で実物を見ました。地域防災拠点の他にも市・区役所、一部の市医療機関に今年度末には約9割が完備される予定とはなんとも心強いですね。
そして各家庭では、戸建てのおうちのトイレが使用可能かの判断は①用をたすことなく一度水を流す②建物内と家の周りを点検して水漏れ箇所がないかを確認③問題がなければ大丈夫だそうです。マンションなどの集合住宅では更に慎重に判断しなければなりません。さて使用不可の時のための準備は、一日1人約5回分×3日分＝15トイレパックが必要です。　家族分用意するとなると皆様のお宅はいくつになるでしょう。
ちなみに庭に穴掘って対応しようと予定しているみなさま、どうも言語道断みたいです(反省)。
横浜市からのお願い①各家庭での備蓄②発災時には地域防災拠点に情報を集約
貴重なお話でした。望月係長、日曜日にも関わらずありがとうございました。

おまけ：お土産で頂いた携帯トイレを使ってみました。使い勝手はよかったです。
でも結んだ袋の大きさが小さめのかぼちゃ位。
これが5個×家族分毎日貯まるとなると・・・。どうやって保存しましょう。
（小澤）

シリーズ災害食：元気が出るおやつ
（非常食の定番『乾パン』で作るあんドーナツ）

【材料】

- 乾パン……５０グラム
- ロングライフ牛乳……大４
- 羊かん……４０グラム
- サラダ油……大３
- グラニュー糖……適宜
- ラップ、アルミホイル

【作り方】

❶乾パンと牛乳をポリ袋に入れ、５分ぐらい置き、乾パンが牛乳を吸って柔らかくなったら、ポリ袋の上からもんで、ほぐします。

❷羊かん（今回は茹で小豆）を６等分にします。ラップを６枚用意して❶を1/6量ずつのせ、小豆を中心に置き、包んで丸めます。

❸アルミホイルをフライパンに敷き、油を入れて、中火で温め、❷を入れて転がしながら全面を焼きます。焼きあがったら、取り出してグラニュー糖をまぶします。

（読売クックブック・防災レシピより）

※クックブックには、ロングライフ牛乳とありますが、私は知りませんでした。手元にある普通の牛乳を使用し、羊かんの代わりに手元にあったゆで小豆を使用しました。

【素材メモ】

ロングライフ製法の牛乳・豆腐は、無菌環境下で、充填・包装することで、保存料や防腐剤を使用せずに長期保存を可能にしました。災害時はもちろん、食品ロスにも役立ちます。常温保存品と要冷蔵のものがあるので、表示を確認しましょう。

（付岡）

１：材料

２：乾パンを牛乳にひたす

３：完成！

防災コラム:「フェニックス共済」

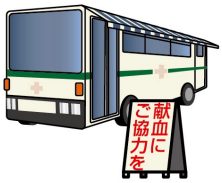
兵庫県は阪神淡路大震災の際に住宅再建に大きな困難を生じ、コミュニティーの復興や地域経済の回復に大きな困難を生んだことからの反省としてフェニックス共済という制度を設けました。兵庫県住宅再建共済基金が運営するこの基金の制度は

（１）住宅再建共済―年額5000円の共済金で半壊以上の住宅債権に最大６００万円を支給
（２）家財債権共済―年額1500円で3回以上または床上浸水に最大50万円を支給
（３）準半壊特約―年額500円で損害割合10%以上20%未満の準半壊に最大25万円支給

全国唯一の画期的な制度ですが、残念ながら現在の加入率はそれほど多くはありません。加入率は（１）で9.6%、（２）で57.1%、（３）が 2.9%となっています。共済制度は多くの加入者が支えあう仕組みです。万が一に備えお互いが支えあう共助の優れた仕組みがもっと普及するといいですね。このような仕組みのない横浜では火災保険の地震特約に必ず加入したいものです。

（宇田川）

新年から始めませんか　献血にご協力を



1 はじめに

「防災と献血は関係ないでしょ」と言う方も多いでしょうが、今、災害が発生して、大怪我をして、運良く医療機関に搬送されたとしても、**血液が無くて輸血が受けられない**としたらどうしますか？

2 血液需要は逼迫している

輸血の血液は、献血でしか賄う事ができません。しかし、献血に訪れる方の減少で、**血液需要は非常に逼迫**しています。ここで大規模災害が発生して、多くの怪我人が出ると、**血液需要はパンク**してしまいます。

3 全員が献血できるわけではない

「献血に行く時間がある人がやればいい」とお考えかもしれませんが、献血に訪れた人のうち、**かなりの割合で**、血液検査をクリアできないで、**「献血は次回に」**と言う方が出てしまいます。私も、血液検査はクリアできませんでした。

4 地域や職場でも協力を

職場に献血車が来る場合もありますが、献血への呼びかけは、せいぜいポスター掲示かメールです。職場の管理職から「仕事を止めて献血に行ってください」と声がかかったことはありません。日本赤十字の方も、**献血車が行っても献血に来る方は少ない**と言っていました。ぜひ、**職場や地域に献血車が来たら、協力**してください。

5 おわりに

献血には、血液検査以前に年齢や健康状態などの条件があります。私もいずれ年齢上限に達して、献血できなくなります。ぜひ、**防災の一環として、献血**にご協力ください。

（岩撫）

（イラストはイラストAC(https://www.ac-illust.com)より使用許諾を得て掲載しています。イラストはイラストACに会員登録してご利用下さい。）

＜献血こぼれ話し＞

献血をするには、全国にある献血ルームに行っていただくのが、いつでも献血できて便利です。事前に予約しておくと待ち時間も少なくてすみます。一方、駅前などで献血を呼びかけている「献血バス」での献血もできます。献血をすると「おみやげ」や「飲み物」ももらえるのですが、献血ルームより献血バスのほうが豪華で、「ご当地もの」があったりと楽しめるという都市伝説があります。お試しください。

私自身は、編集後記で書かれている室伏さんと同じで、常用薬のために献血できないのですが。

（中島）

【編集後記】

※小さいとはいえ、地震が多発しています。大きな地震が来る前に備えを固めなければ(岩撫)

※以前はずっと献血していましたが、服用薬の関係で出来なくなってしまいました。残念です。（室伏）

※コロナと合わせてインフルエンザも流行るとの報道が出ています。可能な限り予防に努めていきたいですね。（鴨下）

※私の献血体験は、子供が小学校入学時に始まり年齢上限まで40回以上です。初めはドキドキしました。輸血体験はありませんが、輸血だけでなく薬品になるとも聞いていますので、少しは役に立った？（付岡）

※望月係長のお話はとても参考になりました。見えないところでさまざまなサービスを提供していただいている、行政の方のお話を聞けたのは、とても良かったと思います。（中島）